



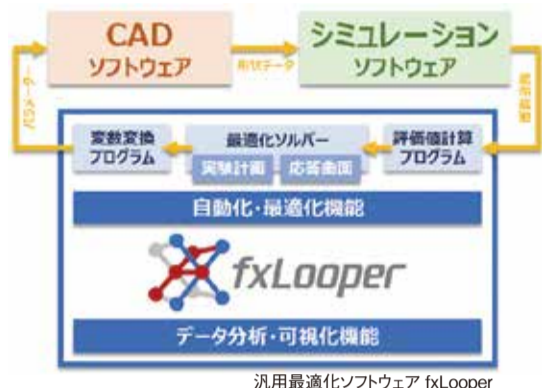
よろず支援拠点 注目の相談事例

事例 1

アナザーワーカー
株式会社Anotherworker(四日市市)
代表取締役 金澤 賢一 氏

効率化・自動化・最適化を実現する ソフトウェア会社への助言

よろず支援拠点コーディネーター 中野 昭彦



汎用最適化ソフトウェア fxLooper



金澤 賢一代表取締役

アナザーワーカー
株式会社Anotherworkerは、金澤 賢一氏(以下、金澤さん)が平成27年4月に創業したソフトウェア会社です。よろず支援拠点とのお付き合いは、

平成26年11月開催の「みえリーディング産業展」(主催:三重県)『よろず相談会』が始まりました。

金澤さんは三重大学大学院で数理論最適化アルゴリズムの開発と鋳造プロセスへの適用をテーマに研究を行い、博士(工学)を取得しており、この専門知識を活用して事業を展開できるように、起業から事業計画策定、販路開拓などの助言をさせていただいています。

同社では、当初、製造業での各種製造プロセスにおける最適計算ソフトや計算サービスを受託していましたが、単発の発注で言わば“一品一様”、安定的な収益が得られにくく、営業効率の良くないことが課題となっていました。

そこで、安定的な収益と営業効率の良い製品の開発の必要性を助言してきたところ、現在、次のサービスを2

本の柱としています。

1本目は、「汎用最適化ソフトウェア エフェクスルーバー fxLooper」で、鋳造方案最適化、ダイカスト射出速度最適化、液体搬送最適制御等に適用できるので、安定的かつ継続的に収益が得られ、営業効率も良い自社開発製品です。

2本目は、コンピュータやアプリケーションを操作して行う繰り返し性の高い業務に対し、コンピュータのみで業務を完結させる自動化システム・ソフトウェアの「受託開発サービス」で、研削加工シミュレーション・加工条件最適化ソフトウェア、金型見込形状自動設計ソフトウェア、SOLIDWORKS API(マクロ)を利用した自動化ソフトウェアなどがあります。

起業の支援から販路開拓等まで、これからもさまざまな支援をしていきます。

事例 2

株式会社ファインデンタル(名張市)
代表取締役 岡本 一男 氏

HPを通じて自社の 考え方・取り組みを積極的に発信

よろず支援拠点コーディネーター 水谷 哲也



全国の歯科診療所数は平成30年3月末で約6万8千件と、実はコンビニエンスストアの数よりも多く、歯科診療所とパートナーシップを組む歯科技工業界においても競争が激化しています。

歯科診療には保険診療と自費診療がありますが、例えば保険診療の補綴物(差し歯)は下請け構造的な業界特性から売り上げはあっても利益を出すことは難しい状況です。

そこで、株式会社ファインデンタルの岡本一男氏(以下、岡本さん)は付加価値が高い自費診療の補綴物製作に“選択と集中”したいと考えました。そのためには自費治療専門で技術力がある審美歯科医との新たなパートナーシップを組む必要がありました。

岡本さんから、まずは同社の経営理念等をしっかり伝えたいとHPのリ

ニューアルについて相談がありました。

新しいHPでは、経営理念の他、最新設備の導入や社員教育、生産工程の自動化、品質の安定への取り組みなどを情報発信するよう助言しました。

積極的な営業もあり、望んでいた審美歯科医とパートナーシップを組むことができ、さらにこのリニューアルは求人にも効果を発揮しています。

歯科技工業界は個人開業が8割を占める中、同社ではすでに10人を超える歯科技工士が在職していますが、ホームページを見た歯科技工専門学校生が最新設備が導入されていることに魅力を感じ、入社を希望するケースも出ています。

これからも、皆様の相談に寄り添って、一緒に課題解決を考えてまいります。

事例 3

株式会社富士珈琲(津市)
代表取締役社長 阿竹 実 氏

地域間事業者連携による 新商品開発への挑戦

よろず支援拠点コーディネーター 高垣 和郎



阿竹 実社長



新商品「三重県産はちみつ使用カフェオレベース」。

消費者の多様なニーズに応えるべく、事業者の皆さんは新商品開発に日々取り組んでいます。特に食品業界では厳しいと言われ、スーパーマーケット等の店頭では常に新商品が溢れています。コンビニでは新商品でも売れないと判断されると売り始めから1週間で棚から外されてしまうほどです。

株式会社富士珈琲は昭和43年10月創業のコーヒー焙煎業者。全国統一組織「全日本コーヒー商工組合連合会」加盟の三重県内唯一の事業者です。

主な取引先は三重県内の有名ホテルレストラン他、東海地方の喫茶店等ですが、近年の珈琲ブームにも関わらず喫茶店の廃業が増えており、販売先が減少してきていることが課題となっています。

同社代表取締役の阿竹実氏は、消費者向け商品も手掛けた折から相談に訪れ、今回夏に向けての新商品を開発したいとの相談があり、甘さにこ

だわった「カフェオレベース」の新商品を開発することとなりました。

よろず支援拠点からは、商品の特徴をどう出すか? 珈琲だけでなく甘味にもかくし味という事で、地域資源や産品の活用として「蜂蜜」を使うことを提案させていただくとともに、四日市商工会議所と連携し、四日市市で唯一の養蜂場である「川村養蜂場」をご紹介させていただきました。

この連携による新商品「三重県産はちみつ使用カフェオレベース」は令和元年5月に店頭で販売を開始。価格帯はちょっと高めながら消費者から好評を博しています。

この事例のように、よろず支援拠点では各支援機関との連携を図ることに、商品・サービスの魅力アップや販路開拓だけでなく、事業の充実につながるようなサポートをしています。どうぞ、お気軽にご相談ください。